

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）			教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）			入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）						
<p>武庫川女子大学大学院生活環境学研究科生活環境学専攻修士課程では、本学の定める修業年限以上在学し、所定の履修方法に従って30単位以上を修得し、「MUKOGAWA COMPASS」に基づく次のような能力・資質を身につけたうえで、論文審査および試験に合格した者に対し、課程修了を認定します。「生活環境学領域」を主として専攻して、生活環境学に関するディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を満たした者に修士（生活環境学）を、「生活文化情報学領域」を主として専攻して生活文化情報学に関するディプロマ・ポリシーを満たした者に修士（情報メディア学）修士の学位をそれぞれ授与します。</p>			<p>武庫川女子大学大学院生活環境学研究科生活環境学専攻修士課程では、本専攻の定めるディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を達成するために、次のような方針に基づき、カリキュラムを編成します。</p> <p>高度な専門知識と技能を身につけるため、「生活文化情報学領域」と「生活環境学領域」の2つの領域に分かれ、「生活文化情報学領域」には生活文化学、生活美学、生活行動学および生活情報学分野の4分野を、「生活環境学領域」には生活環境学、生活材料学および環境デザインの3分野を設けた教育課程を編成します。研究課題は、文系・理系・造形系に広く及びます。座学だけではなく、演習などの主体的な学修方法を通して、ディプロマ・ポリシーを達成します。学んだ集大成として、修士論文に結実できたかどうかで、その達成度を評価します。なお、中高（家庭）の教員免許状（一種）を有する者が、必要な科目を履修し、単位を修得すれば、当該教科にかかわる専修の教員免許が取得できます。また、必要な科目の履修により、修士課程を一級建築士受験資格における実務経験年数に算入できます。</p> <p>「生活文化情報学領域」</p> <p>①生活文化学分野 文化資源や伝統産業の調査研究を通して、生活環境の文化論的背景を解明するなど、生活文化論の研究とともに、生活美学（生活環境の美的価値観）も研究することができます。</p> <p>②生活美学分野 身近な日常生活における趣味・嗜好を重視した、より現代的な生活美学を研究します。</p> <p>③生活行動学分野 現代生活の重要な部分を占めている「購買行動と余暇行動」に視点をあて、生活環境の中で人間行動の実態および動向の分析研究を行います。</p> <p>④生活情報学分野 生活情報の構造や機能を分析し、処理のためのアルゴリズムの解析研究、システムの設計を中心とした生活情報の処理を系統的に研究します。</p> <p>「生活環境学領域」</p> <p>⑤生活環境学分野 身近な環境としての衣環境、基本的な生活行動の場としての住環境を中心に、環境と人間との関係や人間の対応などについて研究します。</p> <p>⑥生活材料学分野 生活環境を構成する材料全般について、天然材料から合成品まで、その特性、機能発現のメカニズム、加工、環境による状態変化などを複合的に研究します。</p> <p>⑦環境デザイン分野 住宅から都市空間までの建築デザイン、造園や自然景観の設計、自然と建築群とを融合した都市デザイン、これらの空間の安全性を追究する構造デザイン、光・熱・音などを活用した環境デザインを中心に研究します。一級建築士受験に必要な実務経験を積むことができます。</p> <p>研究指導は、指導教員による特別研究により、研究課題の決定、研究計画の作成への指導助言を行い、修士論文の作成を指導します。また標準修業年限を超えて履修することができる長期履修生制度により、修学上の多様なニーズにも配慮します。</p>			<p>武庫川女子大学大学院生活環境学研究科生活環境学専攻修士課程では、「立学の精神」と「MUKOGAWA COMPASS」に共感し、これらに基づいた、本専攻のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を理解したうえで、本専攻のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に則した教育課程を学ぶために必要な、以下に掲げる学力と意欲を有する人の入学を受け入れます。</p>						
<p>武庫川女子大学人材育成方針「MUKOGAWA COMPASS」の3要素（知識・姿勢・行動）および8項目</p>			<p>MUKOGAWA COMPASSに対応するディプロマ・ポリシーの項目</p>			<p>武庫川女子大学人材育成方針「MUKOGAWA COMPASS」の3要素</p>						
知識	1	多様化・複雑化する社会を理解する力	1-1	生活環境に関わる事象を多面的に捉え、定量的・論理的に分析する高度な知識を有している。	「生活文化情報学領域」	①生活文化学分野	文化資源や伝統産業の調査研究を通して、生活環境の文化論的背景を解明するなど、生活文化論の研究とともに、生活美学（生活環境の美的価値観）も研究することができます。	知識	社会を理解し、生活環境学に関する高度な研究能力を身につけるために必要な基礎学力を有している。			
			1-2	生活文化および情報に関わる事象を多面的に捉え、定量的・論理的に分析する高度な知識を有している。						②生活美学分野	身近な日常生活における趣味・嗜好を重視した、より現代的な生活美学を研究します。	「生活文化情報学領域」を専攻しようとする者は、生活文化学、生活行動学、生活情報学の内容の専門知識を備えている。「生活環境学領域」を専攻しようとする者は、生活材料学、住居学、建築設計学などの内容の専門知識を備えている。
知識	2	“生きること”につながる専門性	2-1	生活環境に関わる事象に対して、文化的・社会的な観点からの高度な専門知識、快適で健全な生活環境を形作るための、科学的・工学的な高度な専門知識、および生活環境を豊かにするモノに対して、造形的な観点からの素養を身につけている。	「生活環境学領域」	③生活行動学分野	現代生活の重要な部分を占めている「購買行動と余暇行動」に視点をあて、生活環境の中で人間行動の実態および動向の分析研究を行います。	知識	「生活文化情報学領域」を専攻しようとする者は、生活文化学、生活行動学、生活情報学の内容の専門知識を備えている。「生活環境学領域」を専攻しようとする者は、生活材料学、住居学、建築設計学などの内容の専門知識を備えている。			
			2-2	生活文化および情報に関わる事象に対して、マーケティングやメディア研究などの社会科学の観点からの高度な専門知識、情報を加工・分析する高度な技術、社会における様々なデータを収集し、数理的なアプローチからデータを分析する高度な技術を有している。						④生活情報学分野	生活情報の構造や機能を分析し、処理のためのアルゴリズムの解析研究、システムの設計を中心とした生活情報の処理を系統的に研究します。	
姿勢	4	3 自他を尊重する姿勢	3	他者を尊重し、理解しようとする態度を身につけている。	「生活環境学領域」	⑤生活環境学分野	身近な環境としての衣環境、基本的な生活行動の場としての住環境を中心に、環境と人間との関係や人間の対応などについて研究します。	姿勢	自他を尊重し、失敗を恐れず挑戦するしなやかな姿勢を身につける意欲を有している。			
		4 失敗を恐れず挑戦する姿勢	4	生活環境を構成する事象に対し、創造的なアプローチをし、表現する技能、および、問題の解決につなげることのできる高度な技能を有している。						⑥生活材料学分野	生活環境を構成する材料全般について、天然材料から合成品まで、その特性、機能発現のメカニズム、加工、環境による状態変化などを複合的に研究します。	生活環境に関して、文化的、社会的、科学的、工学的、造形的な観点からの高度な専門知識を習得しようとする姿勢を有している。
		5 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	5	生涯にわたり、自立して学び続けるための意欲と向上心を身につけている。								
行動	7	6 論理的に考え伝える力	6	新たな課題に対し、論理的に考え、問題を解決する高度な能力を身につけている。	「生活環境学領域」	⑤生活環境学分野	身近な環境としての衣環境、基本的な生活行動の場としての住環境を中心に、環境と人間との関係や人間の対応などについて研究します。	行動	自ら考えて表現すること、新たな価値を創造し、多様な人々と協働することへの意欲を有している。			
		7 新たな価値を創造する力	7	新たな課題に対する、高度な創造的能力と表現力を身につけている。						⑥生活材料学分野	生活環境を構成する材料全般について、天然材料から合成品まで、その特性、機能発現のメカニズム、加工、環境による状態変化などを複合的に研究します。	生活環境を構成する事象に対し、定量的、論理的、創造的なアプローチから学ぼうとしている。
		8 多様な人々と協働する力	8	社会性を有し、他者と協調・協働して社会の発展に貢献する態度を身につけている。								
									生涯にわたり、自立して学び続ける意欲と向上心を有している。			